

「加古川銘菓」



食欲の秋。加古川市民のソウルフード「かつめし」は全国的に認知されてきましたが、今回はみなさんご存じかとも思いますが、食べておいしい、おみやげに喜ばれる、加古川の銘菓を紹介します（いずれも「兵庫県指定観光名産品協会」が、「ひょうご名産品」に認定・推奨するお菓子です）。

【鹿児のもち】

菓銘の由来は、第十二代とされる景行天皇が「川の下流に一大洲あり、その形鹿のごとし、この地を鹿児かこと云うに至る」との古記による、加古川の古称「鹿児かこ」。

柔らかい俵型の餅菓子の背中に1本の縦線を描き、鹿が座っている形を表しています。



【あいたた最中】

鶴林寺の国宝、白鳳期の金銅聖観音立像には、「昔、この像を盗んだ泥棒たちが鑄潰そうとしたが溶けず、腹を立てて腰の辺りを撲ったら、『あいたたっ』と言ったので、驚いた泥棒たちはあわてて像をお堂に戻した」との伝承があり、人々は「あいたたの観音」と呼ぶようになったそうです。それにちなんだ最中。



以上2品は、加古川駅南2号線沿いに本店がある「春光堂」のお菓子です。

【鶴林もなか】

その名のとおり、鶴林寺のシンボル三重の塔モチーフにした最中。立てられる造形は他にはなかなか見られないのでインパクトあり。おみやげにすれば話題になるのでは？

加古川駅南に本店がある「長谷川銘菓堂」のお菓子です。他にも、「鶴林寺せんべい」、「大中遺跡せんべい」などが認定品です。

